

第4学年 体育科学習指導案

対 象 第4学年1組 31名
会 場 体育館
授業者 佐藤 叡

1 単元名 高跳び 「チャレンジし続けたら跳べるようになった!？」

2 単元の目標

高跳びの運動に取り組むことで、その行い方を知るとともに高跳び運動の楽しさを感じ、短い助走から強く踏み切り高く跳ぶことができる。また、自己の適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動を考えることや他者とともに課題を解決するために伝え合うことができる。さらに、きまりを守りながら、誰とでも運動に取り組み、他者の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けて取り組んだりすることができる。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・高跳びの行い方を知るとともに、その動きを身に付けることができる。	・自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付ける活動を選んだり、工夫するとともに考えたことを他者と伝え合えたりすることができる。	・高跳びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けてできる。
活動に即した具体的な評価規準	①高跳びの行い方を理解している。 ②3～5歩程度の短い助走から踏切足を決めることができる。 ③強く踏み切ることを理解している。 ④高く上方に跳ぶために振り上げ足を高く振り上げることができる。 ⑤高く上方に跳ぶために腕を上げることができる。 ⑥膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。	①自己の課題を解決するために活動の場を選んでいる。 ②運動のポイントや他者の運動のよさを学習カードに記入したり、他者に伝えたりしている。	①高く跳ぶ運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、誰とでも励ましながら取り組もうとしている。 ③用具の準備や片付けに協力しながら取り組んでいる。 ④互いの動きを見合ったり、動きのよさや課題を伝え合ったりするときに、他者の考えを認めようとしている。 ⑤運動する場や用具の安全に気を付けている。

4 単元設定の理由

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説体育科編（平成 29 年告示）の以下の内容を受けて設定した。

- C 跳の運動 跳の運動遊びについて、次の事項を身に付けることができるように指導する。
- (1) 次の運動の楽しさや喜びに触れ、行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
エ 高跳びでは、短い助走から踏み切って跳ぶこと
 - (2) 自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
 - (3) 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。

これを踏まえて本単元では、「短い助走（3～5 歩）から踏み切り足を決めて上方に踏み切り、高く跳ぶことできる」「自己の能力に適した課題を見付け、動きを身に付けるための活動や競争の仕方を工夫し、考えたことを友達に伝えることができるようにすること」「高跳びにすすんでとりくむこと」を目標としている。短い助走から上方に踏み切り高く跳ぶためには、左右両方の足での踏み切りを経験したり、助走や踏み切り・着地といった局面での基本的な技能を身に付けたりすることが大切である。

単元導入ではまず、左右の踏み切り足の選択、次に左右の踏み切り跳び（3 歩）を行い、そして 3 歩助走・5 歩助走の学習活動を設定する。その際に、助走 - 踏み切り - 着地の基本的技能を身に付けられるよう、多様な場の運動をもとに活動できるように工夫する。

単元中盤では、それぞれの局面においての自己の課題を見付け、工夫して活動に取り組むとともに、他者との交流を重ねながら自己の課題を解決することが大切である。そこで、児童が一人一人の技能の習得に応じた高さを設定し、解決できるようにする。また、自己の課題を解決するために自己の動きを他者から見てもらい、客観的にそれぞれの局面でどのような動きをしているのか自己を話し合う場面を設定する。そうすることで、児童相互のやり取りから授業が進めていけるようにする。

単元の後半では、前時までにはどのような動きを身に付けたのかを振り返り、自己の動きを知ることが大切である。そのために学習カードを振り返りながら、それぞれの局面の運動の様子を振り返る活動を設定する。また、チームとして様々な高さの高跳びを跳びながら、ゲーム要素のある活動を取り入れることで、技能の優劣ではなくチームとしての課題を達成するために協力し合う活動を設定する。

(2) 児童観

①運動経験について

これまでの体育の学習では、低学年の走・跳の運動遊び、3年生の走・跳の運動を通して、進行方向から上方への跳躍は様々な運動を通して経験している。3年生では、「走り幅跳び」「小型ハードル」の運動を通して、左右の踏み切り足から前方上方へ跳躍する運動の経験をしている。また、走り幅跳びでは、踏み切る前の「タン・タン・タン」「タ・タ・ターン」のようにリズムをとることを学習するとともに、空中姿勢、着地といった各局面について学習している。第3学年、第4学年の小型ハードルでも第1ハードルまでの歩幅やハードル間の歩幅に着目しながらリズムよく跳ぶことを経験している。さらに飛び越す時の姿勢を考えるなど、各局面での運動のようすについて意識する経験を積み重ねている。

一方で、本単元のように助走 - 踏み切り - 空中姿勢 - 着地と一連の動きの中で方向が「前 - 上方 - 横方向」と変わっていく運動に取り組むことは初めてである。このような運動は非日常的であるため、児童の中には、動き方に慣れなかったり、体の方向感覚をつかめなかったりして苦手意識を抱く児童がいると予想される。また、横方向に棒を跳び越すことへの恐怖感を感じる児童もいると考えられる。

②体育科授業について

全体として、体育の授業に進んで取り組む児童が多く在籍している。しかし、領域によって苦手意識をもつ児童がいたり、体を動かす体育科の授業自体に苦手意識を抱いたりしている児童もいる。第4学年では、これまで「体ほぐしの運動」「多様な動きを作る運動」「かけっこ・リレー」「走・跳の運動（小型ハードル）」の運動に取り組んでいる。その中で、互いに用具を協力して準備したり、片付けたりする姿が見られている。また、活動の中で他者の運動の「よさ」を称賛し合ったり、「何がよいのか」という具体を言語化したり経験をしている。学習カードの振り返りでも、他者のよさを認めたり、他者の動きを真似したりして取り入れようとする姿勢が見られる。

以上の実態を踏まえ、本単元では体を動かすことや走・跳の運動に苦手意識がある児童でも運動の行い方を理解するとともに、自己の課題を解決できるようにしていきたい。単元導入では、様々な場を用意し、短い助走から踏み切り、一定の高さを上方から横方向に空中姿勢が変わる経験を積み重ねたい。その際には、これまでの体育科の授業の運動経験をもとにリズムの取り方や「ふわっ」と跳び、着地する高跳び運動の楽しさに気付けるようにすることが大切だと考える。そのような経験を重ねながら、少しずつ助走の歩数を伸ばしたり、高さを変えたりしながらより高跳びの楽しさを味わうことができるようにする。また、本単元の活動はチーム及び自己の課題を解決するための小集団の運動が中心になる。その中で、互いの動きを見合い、称賛したり、課題を伝え合ったりする経験を積み重ねられるように指導していく

(3) 教材観

本単元の高跳びには以下のような運動の特性がある。

(一般的特性)

- ・短い助走から調子よく片足で踏み切りより高く跳ぶことに挑戦する運動である。
- ・「助走」「踏み切り準備」「踏み切り」「空中動作」「着地」の一連の中で行われる運動である。
- ・跳ぶためには、一定の高さの基準として「棒」があり、跳べたか、跳べないかがはっきりする運動である。
- ・リズムカルな助走や踏み切りの仕方を工夫して目指す記録に挑戦したり、チームで競争の仕方を工夫することで競い合ったりして楽しむ運動である。

(児童から見た特性)

- ・自己の目標とする記録が設定しやすく、記録が伸びたり競争したりするのが楽しい運動である。
- ・自己に適しためあてを設定し、自己のめあてに挑戦し、達成することで楽しさを感じられる運動である。
- ・棒を跳ぶことへの恐怖を感じやすい運動である。
- ・跳び越す対象として棒があるため、助走時にリズムをとることができにくい運動である。

高跳び運動は、「助走」「踏み切り準備」「踏み切り」「空中動作」「着地」のそれぞれの局面から構成される運動である。助走から踏み切り準備はこれまで学習経験のある「走・跳の運動遊び」や「走り幅跳び」と関係がある。しかし、踏み切り、空中動作、着地は、これまでの運動とは異なる体の動かし方がある。助走は進行方向に進みながら、踏み切りでは上方に進み、空中動作では踏み切り足とは反対の足で棒を跳び越しながら、踏み切り足を高く上げる。最後の着地では片足ずつ地面に着いていく。

記録が伸びることで、視覚的に跳べるようになる実感を味わうことができ、運動への達成感や充実感を味わえる教材である。また、記録を伸ばすために児童自身が課題として意識する局面も明確になっており、児童にとっては「何を」「どのように」意識するのか分かりやすく、自己の課題を立てやすい。一方で、一連の動きの中で行われるため、自己の動きが分かりにくく、自己の課題と本当の課題にずれが生じやすい教材でもある。

以上の教材の特性より、単元の導入段階でこれまでの運動と異なる点を簡単な場の運動を通して体で実感する必要があると考える。また、教材の各局面のイラストやポイントをイラストで明示化したものを学習カードに貼ることで単元を通して理想とする動きを児童自身が意識し、自己の課題をもつことができるようにする。同時に、学習カードにはその時間ごとの記録を書けるようにすることで、自身の思考や他者のアドバイスが記録に影響していることを意識できるようにする。さらに、自分の動きと自己の課題のずれに関しては他者に見てもらったり、タブレットによる動画撮影を行ったりしながらずれが起きないように留意したい。

5 単元の指導計画と評価計画（全5時間）

時	目標（●）と主な活動（○）	評価			
		知技	思判表	態度	評価規準[方法]
1	<p>●高跳び運動につながる動きに取り組むことができる。</p> <p>○準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ※部位を意識しながらできるように声掛けする。 ※主運動につながるような運動を取り入れる。 ※音楽を使用することで、リズムよく動く素地を養えるようにする。 <p>○単元・本時のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>跳ぶ時のいろいろな動きに取り組もう。</p> </div> <p>○運動についての説明を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の運動の取り組み方（場ごとのねらい） ・一単位時間の授業の流れについて ・準備、片付けについて <p>○場の準備をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアゾーン（助走からの踏み切りにつなげる） ・フワピタゾーン（着地につなげる） ・ゴムゴムゾーン （踏み切り足と蹴り上げ足の意識につなげる） ・タンタンゾーン（助走からの踏み切りにつなげる） <p>○ローテーションに取り組む - 個人の課題を意識化 -</p> <ul style="list-style-type: none"> ※場ごとのねらいに向かっている姿を称賛する。 ※進んで運動に取り組んでいる姿を称賛する。 ※他者に声を掛けている姿を称賛する。 ※活動の中でよい動きの児童を紹介する時間をとる。 <p>○片付けをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ※安全に片付けができるように声掛けをする。 <p>○学習感想に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動に取り組んでみてどうだったか ・他者のよい動きはあったか ・次は「こうしたい」という次時のめあてについて 			① ③ ⑤	〈主體的〉 ・高く跳ぶ運動に進んで取り組もうとしている。 ・きまりを守り、誰とでも励ましながら取り組もうとしている。 ・用具の準備や片付けに協力しながら取り組んでいる。 【観察・学習カード】
2	<p>●高跳びの跳び方を知り、運動に取り組むことができる。</p> <p>○準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ※部位を意識しながらできるように声掛けする。 ※主運動につながるような運動を取り入れる。 ※音楽を使用することで、リズムよく動く素地を養えるようにする。 	① ② ③		②	〈知・技〉 ・高跳びの行い方を理解している。 ・3～5 歩程度の短い助走から踏切足を決めることができる。 ・強く踏み切る

<p>○前時を振り返り、本時のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分のめあてをきめて、高跳び運動に取り組もう。</p> </div> <p>※前時の運動の様子画像を見る。 ※前時の振り返りの記述を紹介し、本時のめあてが前時の振り返りからつながっていることを意識付ける。</p> <p>○新たな場について知る ※安全に準備することを確認する。 ※準備が終わった後の動きについても確認する。</p> <p>○場を準備する ・高跳びの場 4か所（第2時は高さ固定） ・補助的な場 2か所</p> <p>○運動に取り組む①（個人） ※運動に入る前に役割について確認する。 ※自己の課題を意識できているか声掛けしながら回る。 ※助走・踏み切り・着地でよい動きの姿を伝えながら回る。 ※他者にアドバイスをしたり、見合ったりする姿を称賛する。</p> <p>○他者のよさを紹介する、見て学ぶ（全体） ・他者のよい動きを紹介 ・紹介された児童は模範で試技 ※何を本時のめあてにしているのかを話してから試技するようにし、全体で意識するとはどういうことか浸透できるようにする。 ※試技をした児童のよさを価値付ける。</p> <p>○運動に取り組む②（個人） ※試技の児童の真似をしようとしている姿を称賛する。 ※①よりと比べ動きに違いがある姿を称賛する。 ※他者にアドバイスをしたり、見合ったりする姿を称賛する。</p> <p>○片付けをする ※安全に片付けができるように声掛けをする。</p> <p>○学習感想に取り組む ・自己のめあてに対してどうだったか ・他者の動きでよかったのはどんな姿か ・次は「こうしたい」という次時のめあてについて</p>		<p>ことを理解している。 【観察・学習カード】</p> <p>〈主体的〉 ・きまりを守り、誰とでも励ましながら取り組もうとしている。 【観察】</p>
---	--	---

3	<p>●自己の課題に合わせて、場を選び運動に取り組むことができる。</p> <p>○前時を振り返り、本時のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分のめあてを友達で見合い、よさを伝えながら運動に取り組もう。</p> </div> <p>※前時の運動の様子の動画と映像を見てよい動きと自己のめあて（課題）を振り返る。 ※前時の振り返りの記述を紹介し、本時のめあてが前時の振り返りからつながっていることを意識付ける。</p> <p>○準備運動</p> <p>※部位を意識しながらできるように声掛けする。 ※主運動につながるような運動を取り入れる。 ※音楽を使用することで、リズムよく動く素地を養えるようにする。</p> <p>○場を準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高跳びの場 4か所（第3時は2か所高さ固定） ・補助的な場 2か所 <p>※高さについては児童の学習感想や姿をもとに柔軟に対応していく。</p> <p>○運動に取り組む①（個人）</p> <p>※自己の課題を意識できているか声掛けしながら回る。 ※助走 - 踏み切り - 着地でよい動きの姿を伝えながら回る。</p> <p>○他者のよさを紹介する、見て学ぶ（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者のよい動きを紹介 ・紹介された児童は模範で試技 <p>※何を本時のめあてにしているのかを話してから試技するようにし、全体で意識するとはどういうことか浸透できるようにする。 ※試技をした児童のよさを価値付ける。</p> <p>○運動に取り組む②（個人）</p> <p>※試技の児童の真似をしようとしている姿を称賛する。 ※①よりと比べ動きに違いがある姿を称賛する。 ※前時の姿と比べて、変化のある部分を称賛する。</p> <p>○片付けをする</p> <p>※安全に片付けができるように声掛けをする。</p>	④ ⑤ ⑥	①	<p>〈地・技〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高く上方に跳ぶために振り上げ足を高く振り上げることができる。 ・高く上方に跳ぶために腕を上げることができる。 ・膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。 <p>【観察・学習カード】</p> <p>〈思・判・表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題を解決するために活動の場を選んでいく。 <p>【観察・学習カード】</p>
---	--	-------------	---	---

	<p>○学習感想に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のめあてに対してどうだったか ・他者の動きでよかったのはどんな姿か ・次は「こうしたい」という次時のめあてについて 				
4 本 時	<p>●自己の課題に合わせて、場を選び運動に取り組むことができる。</p> <p>○前時を振り返り、本時のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>友達のよさを伝え合いながら運動に取り組もう。</p> </div> <p>※前時の運動の様子画像と映像を見てよい動きと自己のめあて（課題）を振り返る。 ※前時の振り返りの記述を紹介し、本時のめあてが前時の振り返りからつながっていることを意識付ける。</p> <p>○準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ※部位を意識しながらできるように声掛けする。 ※主運動につながるような運動を取り入れる。 ※音楽を使用することで、リズムよく動く素地を養えるようにする。 <p>○場を準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高跳びの場 4か所（第4時は固定ナン） ・補助的な場 2か所 <p>※高さについては児童の学習感想や姿をもとに柔軟に対応していく。</p> <p>○運動に取り組む①（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※自己の課題を意識できているか声掛けしながら回る。 ※助走・踏み切り・着地でよい動きの姿を伝えながら回る。 <p>○他者のよさを紹介する、見て学ぶ（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者のよい動きを紹介 ・紹介された児童は模範で試技 <p>※何を本時のめあてにしているのかを話してから試技するようにし、全体で意識するとはどういうことか浸透できるようにする。 ※試技をした児童のよさを価値付ける。</p> <p>○運動に取り組む②（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※試技の児童の真似をしようとしている姿を称賛する。 ※①よりと比べ動きに違いがある姿を称賛する。 ※前時の姿と比べて、変化のある部分を称賛する。 			②	④
					<p>〈思・判・表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動のポイントや他者の運動のよさを学習カードに記入したり、他者に伝えたりしている。 <p>【観察・学習カード】</p> <p>〈主体的〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの動きを見合ったり、動きのよさや課題を伝え合ったりするとき、他者の考えを認めようとしている。 <p>【観察・学習カード】</p>

	<p>○片付けをする ※安全に片付けができるように声掛けをする。</p> <p>○学習感想に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己のめあてに対してどうだったか ・他者の動きでよかったのはどんな姿か ・次は「こうしたい」という次時のめあてについて 				
5	<p>●自己の課題に合わせて、場を選び運動に取り組むことができる。</p> <p>○前時を振り返り、本時のめあてを知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分のめあてに向かって運動に取り組もう。</p> </div> <p>※前時の運動の様子画像と映像を見てよい動きと自己のめあて（課題）を振り返る。 ※前時の振り返りの記述を紹介し、本時のめあてが前時の振り返りからつながっていることを意識付ける。</p> <p>○準備運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ※部位を意識しながらできるように声掛けする。 ※主運動につながるような運動を取り入れる。 ※音楽を使用することで、リズムよく動く素地を養えるようにする。 <p>○場を準備する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高跳びの場 4か所（第4時は固定ナシ） ・補助的な場 2か所 <p>※高さについては児童の学習感想や姿をもとに柔軟に対応していく。</p> <p>○運動に取り組む①（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※自己の課題を意識できているか声掛けしながら回る。 ※助走・踏み切り・着地でよい動きの姿を伝えながら回る。 <p>○他者のよさを紹介する、見て学ぶ（全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者のよい動きを紹介 ・紹介された児童は模範で試技 <p>※何を本時のめあてにしているのかを話してから試技するようにし、全体で意識するとはどういうことか浸透できるようにする。 ※試技をした児童のよさを価値付ける。</p> <p>○運動に取り組む②（個人）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※試技の児童の真似をしようとしている姿を称賛する。 	④ ⑤ ⑥		①	<p>〈知・技〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高く上方に跳ぶために振り上げ足を高く振り上げることができる。 ・高く上方に跳ぶために腕を上げることができる。 ・膝を柔らかく曲げて、足から着地することができる。 <p>【観察】</p> <p>〈主体的〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高く跳ぶ運動に進んで取り組もうとしている。 <p>【観察・学習カード】</p>

	<p>※①よりと比べ動きに違いがある姿を称賛する。 ※前時の姿と比べて、変化のある部分を称賛する。</p> <p>○片付けをする ※安全に片付けができるように声掛けをする。</p> <p>○学習感想に取り組む ・単元を振り返って、自分ができるようになったことや成長したことを振り返る。</p>				
--	---	--	--	--	--

6 研究主題との関連

本研究の「働かせる5つの力」及び「子どもに示す4つの力」の関係は以下の通りである。

5つの力	4つの力
自己認知力	自分の考えをもつ力
自己決定力	
自己表明力	自分を表現する力
対話力	人を大切にする力
共創力	チャレンジする力

この授業で主に児童が働かせる力・・・自己決定力(自分の考えをもつ力)

自己の課題に合わせて場を設定するとともに、他者からのアドバイスなどをもとに自己の運動をよりよくしようとする姿

前時までの自分の姿を自己認知しその上で、本時で自己の課題を解決するために「どの課題を選ぶか」という点に児童が自己決定力を働かせると考える。また、本時のねらいは他者との交流である。他者からのアドバイスや言葉掛けをどのように受け止め自分の運動につなげるのかという点にも自己決定力が働くと考えている。

学級経営分科会における手だて

(ア) 日々の振り返り

4月から第4学年では、日々の振り返りとして「成長ノート」に取り組んでいる。その中で、「自己の成長」「他者の頑張り・成長」という2つの視点から日々の生活の様子を記述するものである。その中の他者の頑張りでは、他者に意識を向け、他者の良さを記述する経験を積み重ねている。その経験を本体育科の授業でもつなげていく。

学習分科会における手だて

〇〇さん

今日の高跳びは、足を高く上げることを気を付けました。高く上げるためにはふみきる時に、ひざをまげると高く跳べると思いました。

〇〇さん

△△さんが着地のときに、グラグラしてなくてよかったです。高いところを跳んでいるのにグラグラしないのは、前にとんでるんじゃなくて、上にとぶからきれいに着地できると思いました。

(イ) 課題設定の工夫（前時までの振り返り）

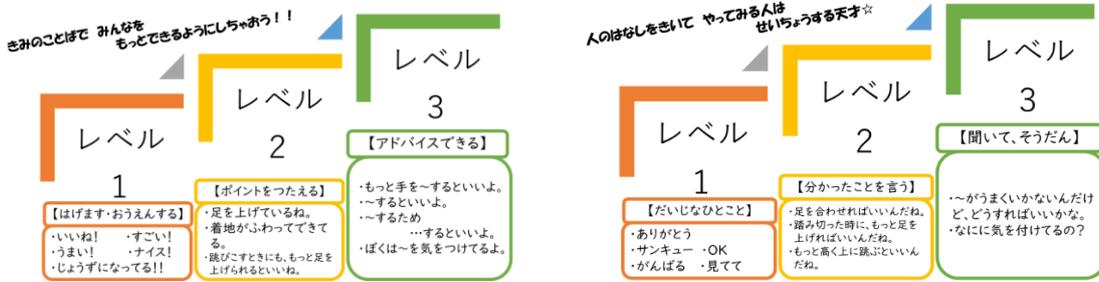
単元を通して、①学習感想の共有を行ったり、②運動の様子画像・映像の視聴をして行ったりしていく。本時に関しては、前時の感想として「自己の課題に対して向き合っている記述」「他者のよい動きを紹介している記述」「次にこうしたい」という子ども発信の課題設定を導入部で確認する。前時までの授業の様子や自分自身の運動を振り返ることで、自己の課題を思い返したり他者の運動のよさを再認識したりし、自己の課題に対して自律的に学びを深める姿をねらう。

(ウ) 課題設定の工夫（自己の課題を選ぶ）

本単元では、単元の始めに技能のポイントを提示する。その上で、技能ポイントを意識しながら運動に取り組むことで、跳べる高さを高めていく。「高さを上げていく」ために、各時間に自己の課題を設定していく。例えば、「踏切の時には強く踏み切って、足を高く上げる」である。授業者が「今日は〇〇を意識して跳びましょう。」ではなく、児童がやりたい（高めたい）と思う課題を個人で設定することで、自己認知力、自己決定力を働かせるとともに、自己の課題に対して互いに対話力を働かせることができるようにしていく。

(エ) 課題設定の工夫（対話を通して考えを深める時間）

本単元では、個人で運動に取り組む時間を設定していく。高跳びは、技能ポイントが明確であるとともに、運動の様子を見た時に気付いたことを伝えやすい運動でもあると考える。自分の運動の様子を見ることはできない。だからこそ、自己の課題を解決していくには対話力が必要である。対話力を働かせるために、「話し合いのモデル」を提示し、他者の運動の様子を見た上で、自己の課題に対して、またその他について互いに対話ができるような経験を積み重ねていく。下は対話のモデル例であり、本単元における対話はレベル3を想定しており、自己の課題に対しての他者から助言や感想を聞き、それに対するフィードバック、または相談ができることをねらっている。

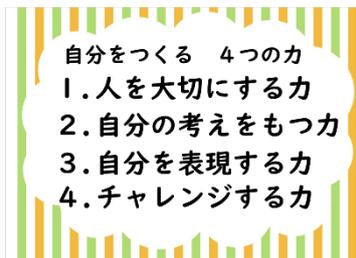


(オ) 課題設定の工夫（児童がやりたいと思う課題探求）

体育科の学習では、技能重視に偏ってしまうおそれがある。単元の後半で、「みんなが高跳びを楽しむためには、最後にどのようなことをするとよいか」という問いを児童に投げ掛ける。体育が好き、運動が好きという児童だけでなく、「みんなが楽しめる」ようにするという点に重きを置き、授業外のアンケートや話し合いの場を設定し、決めていく。本時の授業もみんなで楽しむための技能を高めたり、他者の動きを見てアドバイスをし合ったり、互いの考えを認め合う時間として位置付けたい。みんなで楽しめるものの例としては、「高跳びビンゴ」「高跳びたし算」「高跳びたし算&かけ算」などのゲーム要素があり、競争の要素があるものを考えている。以下は例。

- ※高跳びビンゴ・・・チームごとにビンゴカードをもち、チームとしてビンゴに書かれている高さを跳べたら色が塗れるというもの。苦手な人は低い高さを跳びチームに貢献し、高い高さを跳べる人は高いところに挑戦してチームに貢献する。
- ※高跳びたし算・・・複数の既定の高さを設定し、跳べた高さをたし算して合計を競うもの。
- ※高跳びたし算&かけ算・・・高跳びたし算の発展形で、跳べた人数を掛けて合計を競うもの。

(カ) 課題設定の工夫（5つの力を子どもバージョンに）



体育の授業の中でそれぞれ行う活動がどの力に当たるのかを子どもと話し合いながら明確にし、運動の時に意識しながら取り組むことができるようにする。また、各活動で明確になった力をもとに、それぞれの時間で体育の授業を通して4つの力を振り返ることができるようにしていく。

(キ) 振り返りの充実

単元を通して、授業の終末に学習感想に取り組む時間を設定する。あらかじめ、学習感想の視点を提示することでその視点に沿って自分の運動の様子はどうだったのか自己認知力を働かせることができるようにする。

7 本時（全5時間中の第4時）

(1) 本時のねらい

- ・運動のポイントや他者の運動のよさを学習カードに記入したり、他者に伝えたりしている。(思・判・表)
- ・互いの動きを見合ったり、動きのよさや課題を伝え合ったりするときに、他者の考えを認めようとしている。(主体的)

(2) 本時の展開

	◎本時の活動 ○指導上の留意点 ☆体育科における評価	働かせる力 ★本研究における評価	本研究における指導の手だての具体
導入 5分	◎前時を振り返り、本時のめあてを知る	自己認知力 前時を振り返り、自分の課題を思い返すとともに、他者の感想から本時の運動のめあてを考える。	(イ) 児童の振り返りや写真をもとに前時の活動の様子を想起することができるようにする。
展開 33分	◎準備運動 ○部位を意識しながらできるように声掛けをする。 ◎場を準備する ○高さは、前時の授業感想をもとに柔軟に対応する。 ◎運動に取り組む① ○局面ごとのよい動きについて称賛の声掛けをする。 ○運動が苦手な児童には、個別の課題を確認し、技能ポイントを指導する。 ◎他者のよさを紹介する、見て学ぶ ○何を自己の課題にしているのかを明確にしてから試技するようになる。 ○紹介された児童のよさを児童に問い掛け、よい動きを価値付ける ◎運動に取り組む② ○試技の児童の真似をしたり、自己の課題を意識したりしている児童を称賛する。 ☆運動のポイントや他者のよさを伝えている。 ☆互いの動きを見合ったり、動きのよさや課題を伝え合ったりするときに、他者の考えを認めようとしている。	自己決定力 ★自己の課題を意識して、運動の場を選んでいる。 自己決定力 ★他者の言葉をもとに自己の課題を変えたり振り返ったりしている。	(ウ) 自己の課題である各局面を意識できるように声掛けする。 (ウ) 自己の課題に合わせて、跳ぶ高さを設定するように声掛けをする。 (エ) 話し合いのモデルをもとに互いの運動の様子について伝え合えるように言葉掛けをする。
まとめ 7分	◎片付けをする ○安全に片付けができるように声掛けをする。 ◎学習感想に取り組む ☆運動ポイントや他者のよさを学習カードに書いている。	自己認知力	(カ) (キ) 自己の姿を振り返ることができるように視点を示す。